

日商簿記検定 GOLD

2 級工業簿記テキスト

目 次

<p>商工会議所簿記検定試験出題区分表 ----- 1</p> <p>許容勘定科目 ----- 3</p> <p>第1章 工業簿記と原価計算</p> <p> 1. 商業簿記と工業簿記の違い ----- 5</p> <p> 2. 工業簿記と原価計算 ----- 5</p> <p> 3. 製造原価と総原価 ----- 6</p> <p> 4. 非原価項目 ----- 6</p> <p> 5. 原価要素の分類 ----- 6</p> <p> 材料費, 労務費, 経費</p> <p> 直接費, 間接費</p> <p> 固定費, 変動費, 準固定費, 準変動費</p> <p> 6. 製品原価と期間原価 ----- 8</p> <p> 7. 全部原価と直接(変動)原価 ----- 8</p> <p> 8. 原価計算期間 ----- 8</p> <p> 9. 原価計算の分類 ----- 8</p> <p> 10. 原価計算の目的 ----- 8</p> <p> 財務諸表作成目的</p> <p> 製品の販売価格決定目的</p> <p> 原価管理目的</p> <p> 11. 製造業における簿記一巡 ----- 10</p> <p> 12. 費用の見越・繰延 ----- 14</p> <p> 未払費用勘定を設けない方法</p> <p> 前払費用勘定を設けない方法</p> <p> 13. 財務諸表の作成 ----- 16</p> <p> 損益計算書</p> <p> 製造原価報告書</p> <p> 月次決算と年次決算</p> <p>第2章 材料費の計算</p> <p> 1. 材料費の分類 ----- 21</p> <p> 素材費, 買入部品費</p> <p> 2. 材料の購入 ----- 21</p> <p> 3. 材料の消費(材料費の計算) ----- 21</p> <p> 継続記録法</p> <p> 棚卸計算法</p> <p> 4. 材料の棚卸減耗費 ----- 21</p> <p> 5. 予定価格による材料費の計算 ----- 23</p> <p> 消費材料勘定</p> <p> 材料消費価格差異</p> <p> 継続的後入先出法</p> <p> 6. 材料副費 ----- 28</p> <p> 材料副費差異</p>	<p>第3章 労務費の計算</p> <p> 1. 労務費の分類 ----- 31</p> <p> 賃金, 給料</p> <p> 2. 支払賃金の計算 ----- 31</p> <p> 3. 賃金消費高(消費賃金)の計算 ----- 31</p> <p> 4. 支払賃金と消費賃金の相違 ----- 32</p> <p> 支払賃金の計算期間</p> <p> 消費賃金の計算期間</p> <p> 5. 賃金に関する取引の仕訳と勘定記入 ----- 33</p> <p> 6. 予定賃率による消費賃金の計算 ----- 34</p> <p> 消費賃金勘定を設けて処理する方法</p> <p> 賃金勘定だけで処理する方法</p> <p> 賃率差異</p> <p>第4章 経費の計算と工業簿記の特殊仕訳帳</p> <p> 1. 経費 ----- 39</p> <p> 直接経費</p> <p> 経費の分類</p> <p> 2. 外注加工賃の処理 ----- 40</p> <p> 3. 工業簿記の特殊仕訳帳 ----- 41</p> <p> 材料仕入帳</p> <p> 材料仕訳帳</p> <p> 賃金仕訳帳</p> <p> 経費仕訳帳</p> <p>第5章 個別原価計算</p> <p> 1. 個別原価計算と特定製造指図書 ----- 45</p> <p> 特定製造指図書</p> <p> 賦課と配賦</p> <p> 2. 個別原価計算における勘定記入 ----- 45</p> <p> 3. 原価計算表と原価元帳 ----- 45</p> <p> 4. 製造間接費の実際配賦 ----- 51</p> <p> 配賦率</p> <p> 機械費計算月報と機械率</p> <p> 5. 製造間接費の予定配賦 ----- 54</p> <p> 予定配賦率</p> <p> 製造間接費配賦差異</p> <p> 6. 固定予算と変動予算 ----- 66</p> <p> 公式法変動予算</p> <p> 実査法変動予算</p> <p> 予算差異</p> <p> 操業度差異</p>
--	--

第6章 部門別計算		第11章 総合原価計算における仕損・減損	
1. 部門別計算の意味	75	1. 仕損・減損の処理	137
製造間接費のみ部門別計算を行う方法		2. 正常な仕損費と良品の負担関係	137
2. 原価部門の設定	76	3. 度外視法と非度外視法	138
製造部門		工程始点で発生する場合	
補助部門(補助経営部門, 工場管理部門)		工程終点で発生する場合	
3. 部門別計算の手続	76	工程途中で発生する場合	
部門費配分表		第12章 総合原価計算における副産物	
部門費振替表		1. 副産物の意義	149
直接配賦法		2. 副産物の処理	149
相互配賦法		3. 副産物の評価	149
4. 部門別計算における予定配賦	84	第13章 工場会計の独立	
製造部門費配賦差異		1. 工場会計の独立	153
5. 個別原価計算における仕損の処理	92	工場仕訳帳と工場元帳	
仕損品と仕損費		本社勘定	
6. 個別原価計算における作業屑の処理	96	工場勘定	
作業屑		第14章 標準原価計算	
第7章 総合原価計算・単純総合原価計算		1. 標準原価計算の意義と目的	159
1. 総合原価計算	99	2. 原価標準の設定	160
2. 単純総合原価計算	99	標準直接材料費	
3. 月末仕掛品の評価	100	標準直接労務費	
平均法		標準製造間接費	
先入先出法		3. 標準原価の計算	160
後入先出法		4. パーシャル・プランによる勘定記入	162
完成品換算数量		5. 原価差異の算定と分析	165
4. 原価計算表と損益計算書の作成	117	(1) 直接材料費差異	165
5. 材料を工程の終点で追加投入する場合	119	価格差異	
第8章 等級別総合原価計算		数量差異	
1. 当期完成品原価を按分する方法	121	(2) 直接労務費差異	167
等価係数		質率差異	
製品元帳		作業時間差異	
2. 当期製造費用を按分する方法	123	(3) 製造間接費差異	169
第9章 組別総合原価計算		四分法, 三分法, 二分法	
1. 組別総合原価計算	127	6. シングル・プランによる勘定記入	179
組間接費		第15章 直接原価計算	
第10章 工程別総合原価計算		1. 直接原価計算の意義と特徴	181
1. 工程別総合原価計算	131	2. 全部原価計算と直接原価計算の違い	182
前工程費		3. 全部原価計算と直接原価計算による	183
半製品		損益計算書	

4 . 固 定 費 調 整	191
5 . 短期利益計画への役立ち	193
C V P 分 析	
損 益 分 岐 点	
目 標 利 益 を 達 成 す る た め の 売 上 高	
6 . 原価の固変分解	197
費 目 別 精 査 法	
高 低 点 法	
練習問題解答	199

第 1 章 工業簿記と原価計算

ここでは、工業簿記とは何か、原価とは何かを理解すると同時に、工業簿記に特有な勘定科目について、その性質や記入方法を学習する。

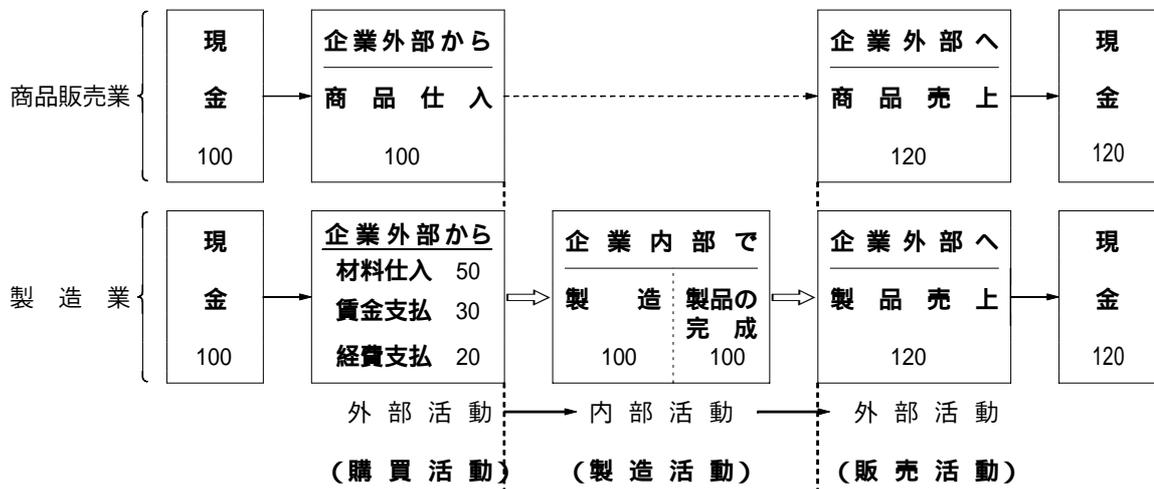
学習の要点

1. 商業簿記と工業簿記の違い

商品販売業では、商品を外部から仕入れ、その商品をそのまま外部へ販売する。この仕入（購買）活動と販売活動を記録・計算・整理するのが「商業簿記」である。

これに対して、製造業では材料を外部から仕入れ、それを加工して製品を製造し、その製品を外部へ販売する。この購買活動、製造活動および販売活動を記録・計算・整理するのが「工業簿記」である。

商品販売業と製造業の経営活動の違いを図で示すと、次のとおりである。



2. 工業簿記と原価計算

工業簿記は、製造業において用いられる複式簿記であり、外部活動と内部活動の記帳を行う。とくに、内部活動としての製品の製造過程について記録し計算するのが、工業簿記の特徴である。

そして内部活動を記録するために、製品の製造に要した費用（これを製品の製造原価という）を計算するが、この計算手続を「原価計算」という。

練習問題

【問題 1】 次の文の（ ）の中に、下記の語群の中から、もっとも適当なものを選び記入しなさい。

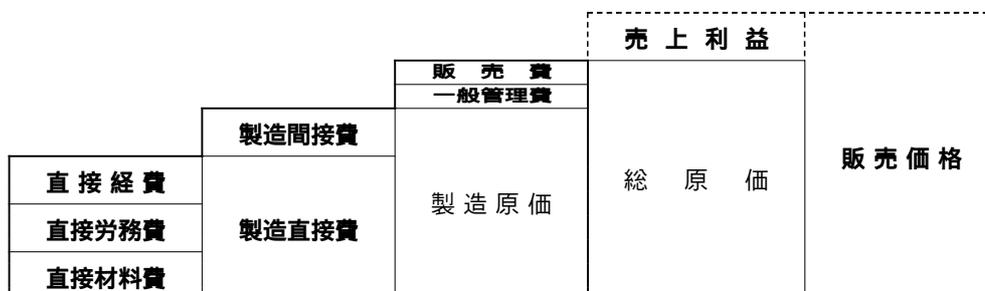
- 商品販売業に適用される簿記を（ア ）といい、製造業に適用される簿記を（イ ）という。
- 商品販売業では、商品の仕入れや販売などの外部活動が行われるが、製造業では、この他に（ウ ）という内部活動を行うことが大きな特徴である。この内部活動を記録するために、製品の製造に要した費用を計算する手続が（エ ）である。
- 製品の製造のために要した費用を（オ ）という。

製造原価	販売活動	商業簿記	製造活動
購買活動	工業簿記	複式簿記	原価計算

学習の要点

3. 製造原価と総原価

原価とは、通常、製品の製造に要した費用、すなわち製品の「製造原価」を意味するが、この製造原価に販売費（製品の販売のために要した費用）および一般管理費（企業全体の管理のために要した費用）を加えた「総原価」を意味する場合もある。原価の構成図を示すと、次のようになる。



4. 非原価項目

「非原価項目」とは、原価計算制度において、原価に算入しない項目をいい、この場合の原価は総原価を意味している。非原価項目の例としては次のような項目がある。

- (1) 経営目的に関連しない価値の減少としての、長期にわたり休止している設備の減価償却費・管理費、支払利息、有価証券評価損および売却損など、損益計算書の営業外費用の区分に表示される項目。
- (2) 異常な状態を原因とする価値の減少としての、火災・盗難損失、固定資産売却損および除却損、異常な棚卸減耗損など、損益計算書の特別損失の区分に表示される項目。
- (3) 上記(1)、(2)の他、法人税等、株主配当金など。

5. 原価要素の分類

原価要素とは、製品の製造原価を構成するものをいい、次のような分類方法がある。

(1) 発生形態による分類

材料費 ⇨ 製品の製造のために消費した材料の消費高をいい、素材費（または原料費）、買入部品費、燃料費、工場消耗品費などがある。

労務費 ⇨ 製品の製造のために消費した労働力の消費高をいい、賃金、給料、雑給、従業員賞与手当、退職給付引当金繰入額（退職給付費用）、法定福利費（健康保険料企業負担額）などがある。

経費 ⇨ 材料費、労務費以外の原価要素をいい、減価償却費、材料棚卸減耗費、修繕費、電力料などがある。

(2) 製品との関連による分類

製品の製造原価の発生が、特定の製品に関して直接的に認識されるかどうかにより分類する。

直接費 ⇨ 直接材料費、直接労務費、直接経費

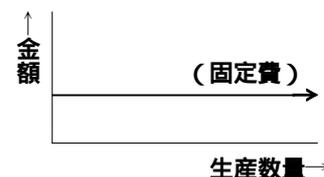
間接費 ⇨ 間接材料費、間接労務費、間接経費

(注) 直接材料費と直接材料費以外の原価要素（これを加工費という）に分類する場合もある。

(3) 操業度との関連による分類

「操業度」とは、一定の生産設備の利用度をいい、一定期間における製品生産数量・作業時間・機械運転時間などにより示される。

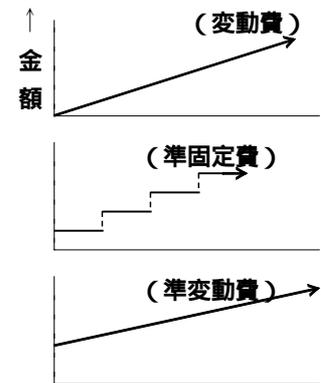
固定費 ⇨ 操業度の増減に関係なく、一定期間の発生額が一定している原価要素をいい、減価償却費、租税公課、賃借料、保険料などがある。



変動費 ⇒ 操業度の増減に応じて比例的に増減する原価要素をいい、直接材料費、出来高払賃金などがある。

準固定費 ⇒ ある範囲内の操業度の変化では固定的であり、これを超えると急増し、再び固定化する原価要素をいい、監督者の給料などがある。

準変動費 ⇒ 操業度がゼロの場合でも一定額が発生し、同時に操業度の増加に応じて比例的に増加する原価要素をいい、水道料、電力料などがある。



練習問題

【問題2】 次の原価構成図について、〔 〕には適当な用語、()には金額を記入して完成しなさい。

- 資料 (1) 製造間接費は直接労務費の60%である。
 (2) 販売価格は総原価の60%増しである。

			売上利益 () 円	
		販売費 220,000円		
		一般管理費 140,000円		
	〔 〕 () 円			販売価格
直接材料費 300,000円		〔 〕		() 円
直接労務費 400,000円	〔 〕 () 円	() 円	1,500,000円	
〔 〕 () 円				

【問題3】 次の項目について、原価計算制度上、非原価とされる項目には「0」、原価に算入され、しかも製造原価となる項目には「1」、販売費となる項目には「2」、一般管理費となる項目には「3」を、それぞれの項目の〔 〕の中に記入しなさい。

- (1) 〔 〕 工場の運転資金として必要な、取引銀行からの借入金に対する支払利息
- (2) 〔 〕 工場の運動会に係る費用、例えば従業員に授与する賞品の購入費用など
- (3) 〔 〕 工場建物の減価償却費
- (4) 〔 〕 本社建物の減価償却費
- (5) 〔 〕 新製品発表会に係る費用
- (6) 〔 〕 有価証券の評価損

【問題4】 次に示す費用のうち、一般的に分類して、固定費となるものには「A」、変動費は「B」、準固定費は「C」、準変動費は「D」を、それぞれの〔 〕の中に記入しなさい。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| (1) 〔 〕 減価償却費(定額法による) | (5) 〔 〕 工場監督者の給料 |
| (2) 〔 〕 火災保険料 | (6) 〔 〕 直接工の出来高払賃金 |
| (3) 〔 〕 固定資産税 | (7) 〔 〕 地代・家賃などの賃借料 |
| (4) 〔 〕 電力料 | (8) 〔 〕 直接材料費 |

学習の要点

6. 製品原価と期間原価

製品原価と期間原価との区別は、財務諸表上の収益との対応関係の違いにもとづくものである。

製品原価とは、その期に生産された製品に集計され、その製品の販売を通して収益に対応される原価をいう。

期間原価とは、製品に集計されることなく、その期の収益に直接対応する原価をいう。

7. 全部原価と直接（変動）原価

全部原価と直接原価は、製造原価を製品に集計するときに、その全部か、または一部を集計するのかわによって異なる。

製造原価を製品に集計するときに、すべての製造原価を集計した製品原価を全部原価といい、変動製造原価のみを集計した製品原価を直接原価という。

8. 原価計算期間

企業の損益計算は、通常1年を「一会計期間」として、その期の純利益（または純損失）を計算する。これに対して、「原価計算期間」は1カ月を単位（一期間）とし、製品の製造原価の算定を行う。

9. 原価計算の分類

(1) 製品の生産形態による分類

個別原価計算 ⇨ 種類を異にする製品を個別的に生産する生産形態、すなわち顧客の注文に応じて個別的に製品を生産する受注生産形態に適用する方法で、造船業、建設業、機械製造業などにおいて適用される。

総合原価計算 ⇨ 製品を反復連続的に生産する生産形態、すなわち市場見込生産形態に適用する方法で、製紙業、紡績業、醸造業、菓子製造業などにおいて適用される。

(2) 製品の製造原価を実際原価か標準原価のいずれによるかの分類

実際原価計算 ⇨ 製品の製造のため実際に消費した実際原価を計算する方法

標準原価計算 ⇨ 科学的・統計的な分析調査にもとづき、標準（目標）となる原価をあらかじめ算定しておき、実際の製品生産量に対する標準原価と実際原価とを比較して、その差異を算定し、分析する方法で、主として原価管理目的として用いられる。

(3) 製品の製造原価に集計される原価要素の範囲による分類

全部原価計算 ⇨ 製品の製造のために要したすべての原価要素を製造原価に算入する原価計算

直接原価計算 ⇨ 製品の製造のために要した原価のうち、変動費のみで製品の製造原価を算定する原価計算

10. 原価計算の目的

原価計算の主な目的としては、次に示す3つがある。

(1) 財務諸表の作成に必要な資料を得るため

損益計算書に記載する製品の売上原価、および貸借対照表に記載する製品・仕掛品などの価額は、原価計算にもとづき決定する。

(2) 製品の販売価格の決定に必要な資料を得るため

たとえば注文生産を行う場合、一般的にはその製品の市場価格がないので、原価計算により算定した製品の原価をもとにして、製品の販売価格を決定する。

(3) 原価管理に必要な資料を得るため

原価管理とは、あらかじめ原価の標準（目標）を設定しておき、実際発生額と比較して差異を算定し、その差異の原因を分析することによって製造活動を管理し、原価の引き下げをはかることをいう。この原価管理をもっとも有効に行う方法として標準原価計算がある。

練習問題

【問題5】 次の文の（ ）の中に、下記の語群の中から、もっとも適当なものを選び記入しなさい。なお、同じ記号の（ ）の中には、同一の用語が記入される。

- (1) 原価要素は、材料費、労務費および（ア ）に属する各費目に分類する。
 材料費とは、（イ ）の消費によって生ずる原価をいう。
 （ウ ）とは、労働用役の消費によって生ずる原価をいう。
 （ア ）とは、材料費、労務費以外の原価要素をいう。
- (2) 製品との関連における分類とは、製品に対する原価発生の様態、すなわち原価の発生が一定単位の製品の生成に関して（エ ）に認識されるかどうかの性質上の区別による分類であり、原価要素は、この分類基準によって、これを（オ ）と間接費とに分類する。
 直接費は、（カ ）, 直接労務費, （キ ）に分類し、さらに適当に細分する。
 間接費は、（ク ）, （ケ ）, 間接経費に分類し、さらに適当に細分する。
 必要ある場合には、直接材料費以外の原価要素を総括して、（コ ）として分類することができる。

物 品	直 接 材 料 費	直 接 費	加 工 費	直 接 的
経 費	間 接 労 務 費	労 務 費	間 接 材 料 費	直 接 経 費

【問題6】 次の文の（ ）の中に、下記の語群の中から、もっとも適当なものを選び記入しなさい。

- (1) 製品を製造するために要した材料費・労務費・経費の合計額を（ア ）といい、これに販売費と一般管理費を加えた額を（イ ）という。
- (2) 原価要素のうち、操業度との関連で、その発生額が比例的に増減する原価を（ウ ）といい、これには（エ ）や出来高払賃金などがある。
- (3) 原価要素のうち操業度の増減にかかわらず、一期間の発生高が変化しない原価要素を（オ ）といい、これには租税公課・減価償却費・（カ ）などがある。

総 原 価	固 定 費	直 接 材 料 費	保 険 料
準 変 動 費	製 造 原 価	電 力 料	変 動 費

学習の要点

11. 製造業における簿記一巡

工業簿記では、商業簿記に比較して、(1)使用する勘定科目が多く、かつ(2)製品の製造原価に係る記帳を行うなどの特徴をもっている。そこで、工業簿記を学習する方は、各原価要素（材料費、労務費、経費）に係る記帳から製品に係る記帳までの、どこの箇所を学習しているかをつねに確認し、理解しておく必要がある。

次に製造業における取引とその仕訳、そして勘定記入を示す。

（取引例）〔製造業の基本的な仕訳と勘定記入〕

- ① 材料200円を現金で購入した。

材	料	200	現	金	200
---	---	-----	---	---	-----

- ② 工場の従業員の賃金240円を現金で支払った。

賃	金	240	現	金	240
---	---	-----	---	---	-----

- ③ 工場の経費140円を現金で支払った。

経	費	140	現	金	140
---	---	-----	---	---	-----

- ④ 機械の減価償却費20円を経費として計上した（直接法）。

経	費	20	機	械	20
---	---	----	---	---	----

- ⑤ 材料の消費高200円を計上した。なお、直接材料160円は仕掛品勘定へ振り替え、間接材料費40円は製造間接費勘定へ振り替えた。

仕	掛	品	160	材	料	200
製	造	間	接	費	40	

- ⑥ 賃金の消費高240円を計上した。なお、直接賃金200円は仕掛品勘定へ振り替え、間接賃金40円は製造間接費勘定へ振り替えた。

仕	掛	品	200	賃	金	240
製	造	間	接	費	40	

- ⑦ 経費の消費高160円を計上した。なお、直接経費20円は仕掛品勘定へ振り替え、間接経費140円は製造間接費勘定へ振り替えた。

仕	掛	品	20	経	費	160
製	造	間	接	費	140	

- ⑧ 製造間接費の合計額220円を各製品に配賦し、仕掛品勘定へ振り替えた。

仕	掛	品	220	製	造	間	接	費	220
---	---	---	-----	---	---	---	---	---	-----

- ⑨ 製品の完成高600円を製品勘定へ振り替えた。

製	品	600	仕	掛	品	600
---	---	-----	---	---	---	-----

- ⑩ 製品（売価1,000円、原価600円）を掛で販売した。よって、売上の計上とともに売上原価も計上した。

売	掛	金	1,000	売	上	1,000	
売	上	原	価	600	製	品	600

⑪ 販売費および一般管理費120円を現金で支払った。

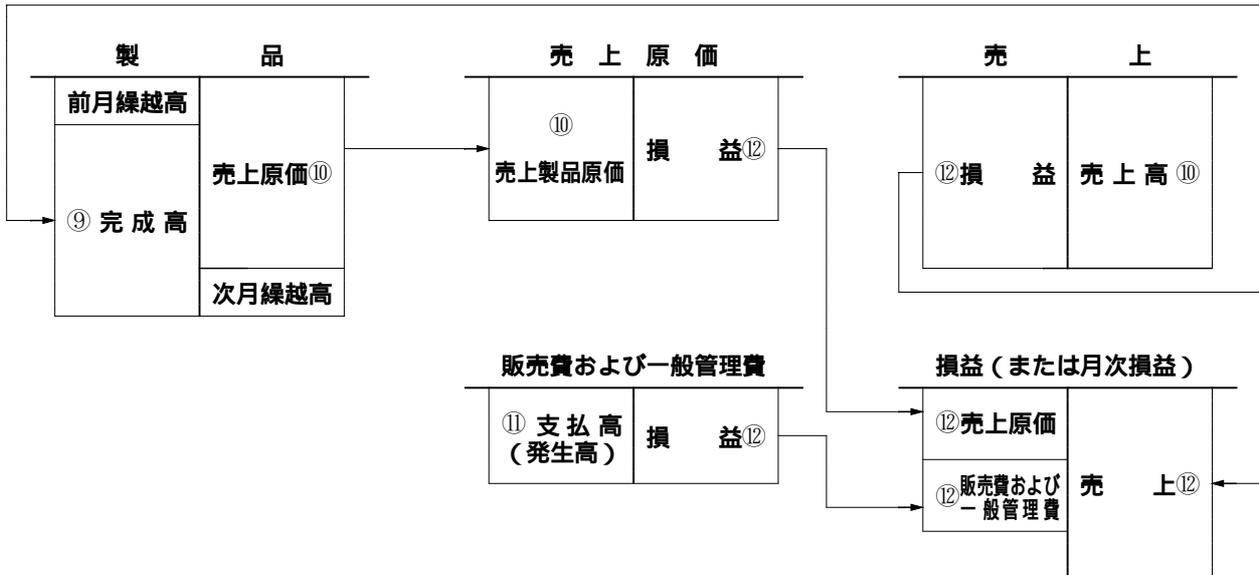
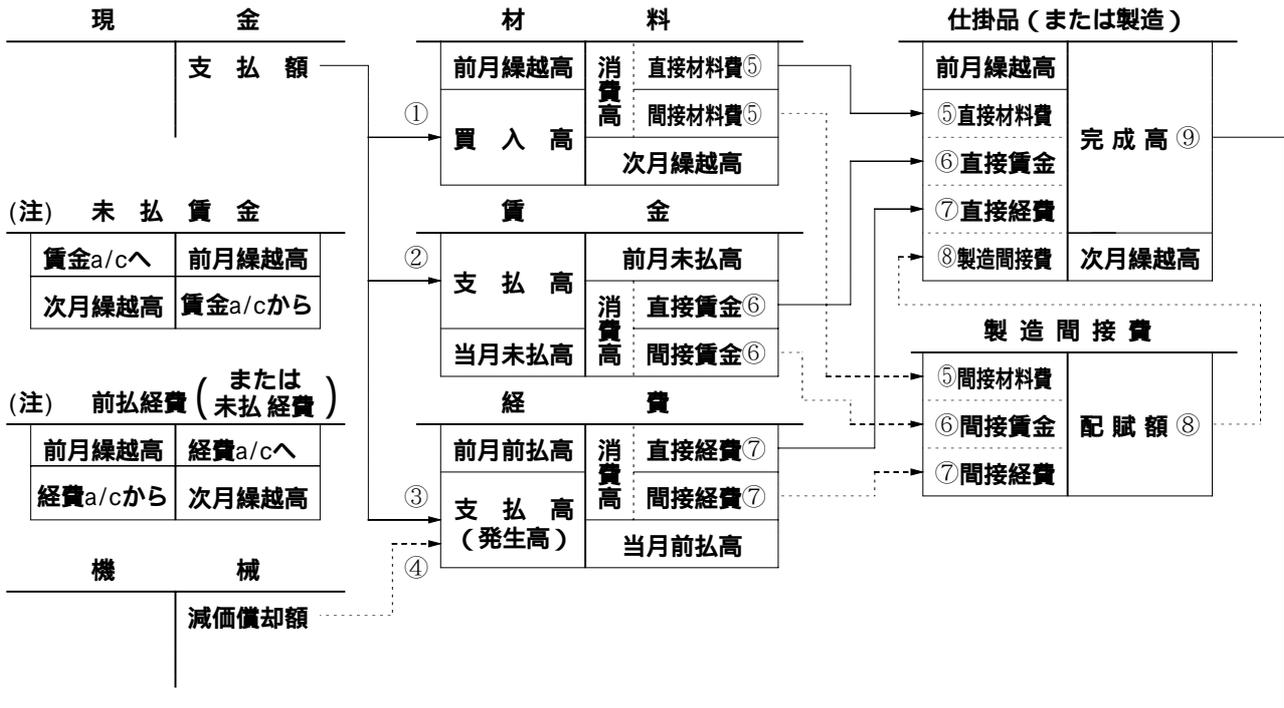
販売費および一般管理費	120	現 金	120
-------------	-----	-----	-----

⑫ 決算となったので、収益および費用を損益勘定へ振り替えた。

売 上	1,000	損 益	1,000
損 益	720	売 上 原 価	600
		販売費および一般管理費	120

(注) 損益勘定の貸借差額として当期純利益280円が求められる。

《総勘定元帳における勘定の流れ》



(注) 費用の見越・繰延については、未払賃金勘定や前払経費勘定を用いず、各費用勘定の中で処理する略式の方法もある。なお、この略式の方法については後述する。

練習問題

【問題7】 次の勘定科目を用いて、下記の取引の仕訳を示しなさい。

使用できる勘定科目：材料，賃金，製造間接費，仕掛品，製品

- (取引) (1) 材料使用高は直接材料26,000円と間接材料4,000円である。
 (2) 賃金消費高は直接賃金13,000円と間接賃金7,000円である。
 (3) 製造間接費20,000円を仕掛品勘定へ振り替えた。
 (製造間接費を仕掛品勘定へ振り替えることを、「製品に配賦する」という。)
 (4) 製品完成高は60,000円である。

番号	借方	金額	貸方	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

【問題8】 次の勘定科目を用いて、下記の一連の取引の仕訳を示しなさい。

使用できる勘定科目：材料，賃金，仕掛品，製造間接費，製品，売上原価，売上，売掛金，買掛金

- (1) 材料仕入高160,000円(全額，掛仕入れ)
 (2) 材料消費高140,000円，うち86,000円は直接材料費である。
 (3) 賃金消費額80,000円，うち65,000円は直接賃金である。
 (4) 製造間接費は直接賃金の120%の率で配賦する。
 (5) 完成品の製造原価は300,000円である。
 (6) 売上高350,000円(全額，掛売り)。なお，この製造原価は230,000円であり，売上原価の計上も行うこと。

番号	借方	金額	貸方	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				